



第3戦 FUJIMAKI GROUP SUZUKA GT 300KM RACE 鈴鹿サーキット

予選 8月22日(土)

天候:晴れ コース状況:ドライ

第2戦富士から2週間のインターバルを置き、第3戦が鈴鹿サーキット(三重県鈴鹿市)において開催。今回はポールポジションを獲得したものの、決勝レースは思うような走りができず苦戦を強いられ9位にとどまった。今回は富士以上の気温と路面温度が予想され、この暑さにどう対処できるかがカギとなるレースだ。

予選：13位



今回のレースも、無観客、チームスタッフの人数制限、さらには参加者全員がレースの2週間前から毎日症状確認の報告を行うなど徹底した感染予防対策を実施した。またサーキット入場時には検温を行うなどの措置が取られた。

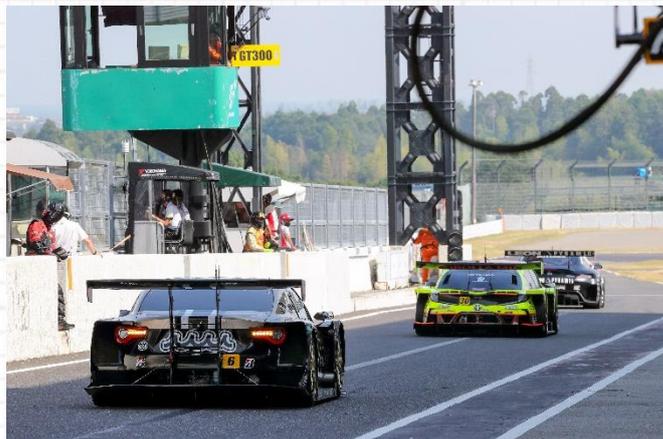
例年8月最後の週末は、かつては鈴鹿1000kmレースが、そして一昨年と昨年は国際レースである鈴鹿10時間レースが開催され、多くのファンを集めていたが、今年は無観客であるためコースサイドやスタンドも寂しい。ただ気温の高さは相変わらずで、チームは今回エアコンの代わりにクールスーツとヘルメット用のクーラーを装備して、真夏のレースに臨む。

22日朝に行われた公式練習では、阪口良平がステアリングを握ってコースへ。しかし前回ポールポジションを獲得した富士仕様のセッティングは鈴鹿に全く合わず、これを修正していく作業に時間を要することになった。セッション終盤には小高一斗がコースインして2分0秒885のベストタイムで、30台中25位。チームはさらにセッティングを変更して公式予選に臨むこととなった。また練習走行後にはSUPER GTで導入を予定しているFCY(フルコースイエロー)のテストも実施された。

公式予選は今回も15台ずつ2つのグループに分けて行われ、各グループ8台がQ2へ進む。我々6号車はBグループでQ1を戦う。気温33℃、路面温度48℃というコンディションの14時48分、小高がコースインして3周目に1分59秒686で4位につけたが、これより速いタイムをマークする車両も多く順位は下がっていく。小高はアタックを続けたが、コースインした直後からギヤがシフトダウンしないというトラブルもあり1コーナーでコースアウトを喫し、Q1突破圏の8位から9位へ順位を落とすことになった。しかし小高は次の周でアタックをやり直し1分59秒363へタイムアップ、最後の最後で7位に滑り込みQ1を突破。直後にピットが大きく沸いた。

Q2は15時23分から10分間で行われた。阪口がコースインして公式練習時とのセッティングの違いを確認しながらタイヤを温めていく。阪口は3周目に2分0秒373のタイムを刻み、4周目に1分59秒935へタイムを縮め13位へ。これで決勝レースのグリッドが確定することとなった。

明日の決勝レースは30台中13位と混雑するグループにあり、難しいポジションではあるが、ミスなく着実に順位を上げ2戦連続でのポイント獲得を狙っていく。決勝レースは13時にスタート予定だ。



ドライバー 阪口 良平

「公式練習で乗った瞬間、富士のレースとは大きくクルマのフィーリングが違って、鈴鹿に合うようアジャストするのに時間を要しました。挙動はちょっと不安定だったのですが、(小高)一斗が乗る前にまた修正し、それで方向性が出ました。予選ではフィーリングが大きく変わっていてセクター3(バックストレートエンド)までは良かったのですが、セクター4(コントロールラインまで)で落としてしまいました。もう一発上に行きたかったのですが、切り替えて自分なりに調整していきたいと思います。明日はしびとく走ってドライバーもピットも仕事を完璧にこなして、トップグループに入って力強いレースをしたいと思っています」



ドライバー 小高 一斗

「予選でコースインした周からシフトが落ちないというトラブルが出ていたのですが、そんな状態でアタックをしましたが、やはりシフトが落ちずミスを繰り返していました。次の週の1コーナーでギヤがニュートラルに入ってしまうコースから飛び出すミスもあったのですが、ピットに残り時間を聞いたら2分ということでしたので、諦めずその次の周でまたアタックをかけてしっかりまとめることができました。Q1を突破できて良かったと思います。公式練習の状態ではQ1はトップ8台に入ることができなかったと思います。明日はしっかりポイントを取れるレースにしたいです。そろそろ表彰台に乗りたいと思います」



チーフエンジニア 田中 耕太郎

「鈴鹿のコースからタイヤへの入力とは富士とは全然違って、公式練習のセッティングでは予選は厳しいであろうということで大幅にセッティングを変更しました。というか昼食の時間も惜しんで無理やりまとめたという感じでしょうか。と同時に宿題もたくさんできました。とにかくQ1を突破できるようなセッティングにしましたが、作戦どおりにいきましたし一斗も頑張ってくれて結果は良かったと思います。決勝は富士の逆パターンで、グリッドは後ろだけけどペースはいいぞ、速いぞとアピールできるような内容にしたいですね。頑張ります」

